

NX7700x/A5010E-2

ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に恐れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご確認ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO5 の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

「本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、ESMPRO 日本語ポータルサイト<https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?isIntra=0&id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンをご確認の上、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに掲載されています。

本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

(「技術サポート情報・ダウンロード」－「ドライバー、ユーティリティ関連の物件」のページの StarterPack の項を参照)

なお、使用する StarterPack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応表」を参照ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?>

(マニュアルの項 にある[本体 (A5010E-2, A5010E-2 v2)]を参照ください。

● VMware ESXiのドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。Web に掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

(「技術サポート情報・ダウンロード」－「ドライバー、ユーティリティ関連の物件」のページのユーティリティの項を参照)

2. SNMP Trap および CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」を参照)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

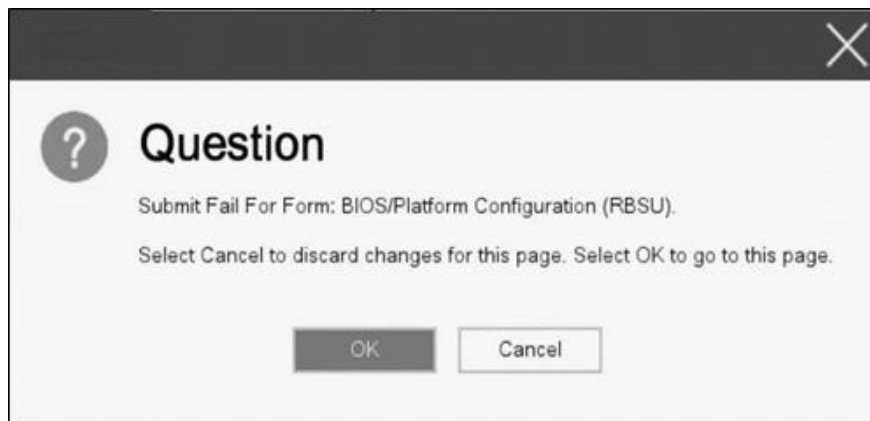
(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

2) システムROMの機能に関する注意事項

● Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次の Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合



日本語表示の場合

● 赤文字画面 (RSOD: Red Screen of Death) が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合、OS 起動前や装置の設定変更中に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源 OFF/ON によって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、一度装置の電源 OFF/ON をお願いします。

なお、問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。

```
X64 Exception Type 0D - General Protection Exception

RCX=AF000000AF000000  DX=0000000000000000  RB=0000000000000000  R9=FFFFFFFFFFFFFFFF
RSP=000000009CDF6E8B  BP=0000000098251FBE  AX=0000000098A45EAB  BX=0000000000000000
R10=0000000000000004  I1=FFFFFFFFFFFFFFFF  I2=0000000000000000  I3=0000000098251F00
R14=0000000000000018  I5=0000000098251F00  SI=AF000000AF000000  DI=AF000000AF000000
CR2=0000000000000000  CR3=000000009CD4B000  CR0=00000013  CR4=00000668  CR8=00000000
CS=0000003B  DS=00000030  SS=00000030  ES=00000030  RFLAGS=00010282
MSR: 0x1D9 = 00004B01, 0x345=000033C5, 0x1C9=0000001F

LBRs From          To          From          To
01h  0000000098A2E792->00000000961F2191  0000000098A2E8FE->0000000098A2E778
03h  0000000098A3CD97->0000000098A2E8E9  0000000098A36D00->0000000098A3CD75
05h  0000000098A30B55->0000000098A36CDF  0000000098A307F3->0000000098A30B3E
07h  0000000098A30759->0000000098A307ED  000000009CDF51A8->0000000098A30744
09h  000000009CDF5183->000000009CDF519B  000000009CDF516A->000000009CDF517D
0Bh  000000009CDF514F->000000009CDF515B  000000009CDF6ECF->000000009CDF5136
0Dh  000000009CDF6CFC->000000009CDF6EC3  0000000099B91CA4->000000009CDF6CF8
0Fh  0000000099B91331->0000000099B91C9E  0000000099B91C99->0000000099B91330

CALL ImageBase      ImageName+Offset
00h  0000000098A2D000  PlatformRecoveryhlp+001792h
      address out of range
```

赤文字画面の例

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合、システムメンテナンススイッチのSW6によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、メンテナンスガイド「1章(6.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項をご参照ください。

● SW RAID有効時、内蔵DVD-ROM(NE3351-137)が2個表示される件について

System ROM のバージョンが v2.02 (02/02/2019) 以降、v2.32 (03/09/2020) 未満の場合は、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を [Smart Array SW RAID Support] 設定時、運用環境により Disk Utilities メニュー(*2)に内蔵 DVD ドライブ情報が2つ表示されます。

どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵 DVD ドライブの情報が参照できます。

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● 工場出荷時の設定について

以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile を「Custom」に設定。
2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State を「No C-states」に設定。
3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State を「No Package States」に設定。

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

1. BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
2. System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。
3. システム ROM v1.36 (02/14/2018)、または v1.36 (02/15/2018) の場合、システムユーティリティ、またはワнтаイムブートメニューを表示したとき、まれにマウスカーソルが黒い四角形の表示となることがあります。これは、表示のみの問題であり、システムユーティリティ上の操作は正常に機能します。
また、この状態はマウスを操作することで解消します。
4. RAID コントローラ (NE3303-190/191/197/201) 搭載装置において、以下の発生条件を満たす場合、ワнтаイムブートメニューと RBSU の PCIe Device Configuration メニュー(*)に、RAID コントローラ名が正しく表示されないことがあります。RAID コントローラ名表示のみの問題であり、RAID コントローラに搭載されている HDD/SSD からのブートには影響しません。

(*) BIOS/Platform configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration

【発生条件】 ※以下 2 つの条件をすべて満たす場合

1. RAID コントローラファームウェアが以下のバージョンである
- NE3303-190/191/197/201 : v4.11 以上
2. システム ROM が v2.68 (07/14/2022) 未満

● シリアルコンソールに POST デバッグ情報が出力される件について

システム ROM v2.32 (03/09/2020)において、POST 実行時、まれに POST デバッグ情報がシリアルポートに出力され、POST 実行時間がおおよそ 2 分長くなることがあります。

システム ROM v2.34 (04/09/2020)以降では、この問題が修正されています。

● RESTful インターフェースツールによる RBSU 設定のバックアップ(保存)とリストア(復元)の注意事項

iLO5 ファームウェアバージョン 2.40 以上の場合、RESTful インターフェースツールを使用した RBSU 設定の保存と復元は使用できません。RBSU 設定の保存と復元は、システムユーティリティの Backup and Restore Settings メニューから行ってください。

● Server Configuration Lock (SCL) についての注意事項

- (1) システム運用中は SCL 機能を無効にし、使用しないでください。
- (2) SCL 機能有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCL のパスワードを紛失した状態で、SCL 機能によりロック (OS ブート前に停止) されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCL のパスワードを紛失した場合、SCL のパスワードをクリアする方法はありません。

- (3) 保守を依頼する際は、SCL 機能を無効化していただく必要があります。
SCL 機能を無効にできない場合、保守は有償にて承ることになります。
- (4) RBSU の「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL 機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック (OS ブート前に停止) されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL 機能の回復不能条件

- RBSU の設定変更によりロックされた場合
- ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェア バージョンに戻すことができない場合
- DIMM、または PCI オプションカードの故障によりロックされた場合

● フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) の仕様変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

- システム ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019) 以降、CPU あたり DIMM 8 枚、もしくは DIMM 12 枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) が使用できる構成であれば、本機は自動的に設定が変更し、同機能の使用を始めます。
- システム ROM のバージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降、各チャネルあたりの RANK 数の合計が 2 以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) は利用できます。
- システム ROM のバージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降、フォールトトレラントメモリ機能 (ADDDC) が使用可能な DIMM として、NE3302-709 が加わります。

● PCIe Slot X MCTP Broadcast Support メニューについて (X は PCIe Slot 番号)

システム ROM バージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降の装置において、初めて PCIe MCTP Options メニュー(*1) を選択した場合、装置のデフォルト設定を強制的に設定する旨のポップアップ(*2)が、設定可能な PCIe Slot 数分表示されます。

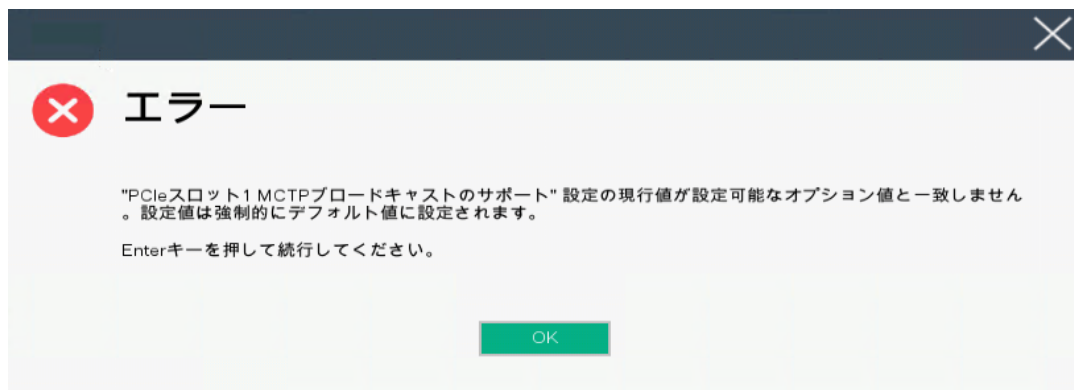
設定を一度保存すると、次回以降ポップアップ表示はされません。

尚、下記システム ROM バージョンの場合、設定保存時にポップアップ(*3)が表示され設定は保存されません。保存されない事により、本メニューを表示させるたびに PCIe Slot 数分のポップアップ(*2)が表示される事になります。この場合、MCTP Broadcast は常に有効で動作します。

- ・ v2.22 (11/13/2019)
- ・ v2.30 (02/11/2020)
- ・ v2.32 (03/09/2020)

*1 : System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

*2 :



*3 :



● Extended Memory Testオプションの設定値について

システム ROM のバージョンが v2.36 (07/16/2020) の場合、Extended Memory Test オプションは、自動的に Disabled となります。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

● iLO イベントログ (IEL) に IPMI Watchdog Timer Timeout のログが登録される。

システムROM v2.62 (03/08/2022) が適用されている場合、かつ IPMI Watchdog Timer オプションを「Disabled (出荷時の設定)」に設定している場合、iLO イベントログに下記の IPMI Watchdog Timer Timeout が登録されることがあります。

以下の手順を実施することで本問題が解消します。

iLO IPMI Watchdog Timer Timeout: Action: None, TimerUse: 0x44, TimerActions: 0x00

イベントクラス: 0x23

イベントコード: 0xB3

復旧手順:

以下の復旧手順1、または2のどちらかを実施していただくことで、本問題が解消できます。

復旧手順1

- 1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外す。
- 2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続する。

復旧手順2

システムユーティリティより、IPMI Watchdog Timerオプションの設定を2回変更します。

- 1) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- 2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプション を「Enabled」に設定する。
- 3) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動する。
- 4) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- 5) System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled」に設定する。
- 6) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステム再起動する。

3) iLO 5 の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバ起動から OS の起動完了までの間 (POST (Power On Self Test) 実行中も含みます) は、iLO の再起動を行わないでください。

また、システム ユーティリティの操作途中も、iLO の再起動を行わないでください。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

例えば、システムユーティリティの設定変更途中に iLO の再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失する場合があります。また、POST (Power On Self Test) 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェース: [情報]-[概要] ページにおける UUID、UUID (論理) が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

＜ 対象となる iLO の再起動の方法 ＞

- iLO Web インターフェースなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- UID スイッチ を使用した iLO の再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO5 ファームウェア 1.40 以降で iLO の拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy] の設定を『Permanently disallow downgrades』に設定を行わないようにしてください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLO に対して永続的な変更が行われるため、iLO の各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定は Set to factory defaults オプションから iLO を出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● OS起動時に検出されるネットワークポートやファイバーチャネルポートの接続エラーについて

OS 起動時に Agentless Management Service (AMS/smad) や ESMPRO/ServerAgentService のサービスが開始されたときに、これらのサービスによってネットワークポートやファイバーチャネルの接続エラー (Link Failure) のメッセージが記録される場合があります。

これらのメッセージは装置の再起動中に発生した一時的な接続状態の遷移を iLO によってイベント検知されたことによるものです。これらのメッセージは無視して問題はありません。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO5 ファームウェア 1.40 以上をご使用の場合、iLO Web インターフェースの [Information] - [Security Dashboard] 及び iLO Web インターフェース画面の右上部に リスクが常に表示されます。

RBSU の設定や iLO の設定の内容次第で、iLO セキュリティの状態がリスク状態 (赤色) で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO5 ユーザーズガイドを参照してください。

但し、『Require Host Authentication』設定については、「システムユーティリティより、Admin Password を設定(※1)した場合や、iLO Web インターフェースから [ホスト認証が必要] 設定を有効 (※2) に設定した場合の注意事項」に注意事項がありますので、ご確認ください。

iLO5 ファームウェアのバージョンによって該当する条件が異なります。

iLO5 ファームウェア	該当条件
バージョン 1.40	(※1)、および (※2)
バージョン 1.43 以上	(※2)

iLO の負荷の状態により [Information] - [Security Dashboard] の “全体セキュリティステータス” が『リスク』であっても、iLO Web インターフェース画面の右上部の “iLO セキュリティ” アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard] の “全体セキュリティステータス” が現在のセキュリティ状態を示します。

● システムユーティリティより、Admin Passwordを設定(※1)した場合や、iLO Webインターフェースから [ホスト認証が必要]設定(※2) に係る注意事項

- (※1) iLO 5 ファームウェアバージョン : 1.43 未満を適用した環境の場合が対象となります。
「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security」より、Set Admin Password オプションにてパスワードを設定する。
- (※2) iLO ファームウェアバージョン : 1.40 以降を適用した環境の場合が対象となります。
「セキュリティ > アクセス設定 > iLO」にある [ホスト認証が必要]を『有効』に設定しないでください。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/ Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、及びイベントログ採取機能

● iLO WebインターフェースのUUIDの不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェースの[Information]-[Overview]ページの UUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。
不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されているシステムで、iLO Web インターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。
これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● iLOの時刻についての注意事項

iLO5 ファームウェア 1.45 以下で iLO の SNTP の設定が無効の場合、iLO の再起動を行うと iLO の時刻がずれてしまう場合があります。
iLO Web インターフェースにて SNTP の設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。
iLO の SNTP の設定方法については、iLO5 ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのVirtual NIC設定の注意事項

[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”のデフォルト値は、iLO5ファームウェアのバージョンにより異なります。
BMC構成ユーティリティにて“工場出荷時のデフォルトにセット”を実施した場合は、以下をご確認ください。

- (1) iLO 5ファームウェア : 2.10以上 2.18以下をご使用の場合、デフォルト値は『有効(Enabled)』です。
しかし、本機はVirtual NIC機能をサポートしておりませんので、[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”の設定を『無効(Disabled)』に変更してください。
- (2) iLO 5ファームウェア : 1.40以上 1.47以下、もしくは、2.31以上をご使用の場合、デフォルト値は『無効(Disabled)』です。

● iLO WebインターフェースのNetwork情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO 5ファームウェア : 2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● iLO WebインターフェースのDevice Inventory情報の表示について

＜SASエクスパンダ(NE3316-51) 構成時＞

iLO 5ファームウェア：2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Device Inventory]において、SASエクスパンダカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバの運用およびSASエクスパンダカードの動作に影響はありません。

- Firmware Version : N/A
- Status : Disabled

● iLO Webインターフェースのセキュリティダッシュボードの注意事項

iLO5 ファームウェア 1.43 以上、2.10 未満をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。

誤ってクリックした場合、Web ページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザのリロードボタンをクリックするか、もしくは一旦 iLO Web インターフェースのログアウトを実行して再度ログインしなおしてください。

情報 - セキュリティダッシュボード

概要 セキュリティダッシュボード セッションリスト iLOイベントログ インテグレートドマネジメントログ

Active Health Systemログ 診断

全体セキュリティステータス: OK

セキュリティ状態: 本番環境
サーバー構成ロック: Disabled

セキュリティパラメーター	↓ステータス	状態	無視
セキュリティオーバーライドスイッチ	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI over LAN	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最小パスワード長	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
iLO RBSUへのログイン要求	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
認証失敗ログ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
セキュアブート	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
パスワードの複雑さ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
ホスト認証が必要	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最新のファームウェアスキャン結果	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

日本語表示の場合

Overall Security Status : OK

Security State Production
Server Configuration Lock: Disabled

Security Parameter	↓Status	State	Ignore
Security Override Switch	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI Over LAN	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Minimum Password Length	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
Require Login for iLO RBSU	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Authentication Failure Logging	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Secure Boot	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Password Complexity	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Require Host Authentication	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Last Firmware Scan Result	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

英語語表示の場合

● 物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知のロケーション情報欠損に関する対処について

物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。ロケーション情報に関しては、iLO5 webインターフェースの[情報]-[インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報をご確認ください。

例:

```
Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6HIHPNIH1Q, uru-rhe183, 192.168.0.57, , 2021/10/01
15:22:57, iLO, 0xc0000be6, "A physical drive status change has been detected. Current status is 3.
(Location: ot 12 Controller: Slot 12)", "If the physical drive status is 'failed(3)',
'predictiveFailure(4)',
```

● iLO5 Ver2.65以降の注意点

iLOwebインターフェースの「システム情報」>「デバイスインベントリ」で BackPlane (BP) の位置情報が不正になる場合がありますが表示だけの問題で動作に影響はありません。

正常時) Slot=#:Port=#I:Box=# ※#は接続先により番号が変わります。

不正時) Slot=#:Port=?I:Box=? 数字の部分が?と表示されます。
または Box=# Box のみ表示されます。

● Java IRCのセッションタイムアウト時に表示に関する注意事項について

Java統合リモートコンソール (Java IRC) 起動中にリモートコンソールのセッションが切れた場合に、セッションが切れたことを示すポップアップと一緒にセッション切れとは直接関係のない内容のポップアップも表示されます。

Java IRC のセッションが切れた場合には、IRCの下部に以下のメッセージが表示されます。本メッセージが表示されている場合には、表示されているポップアップの内容は無視してください。

■ “セッションはタイムアウトか認識されないアクセスによって閉じられました。”

● iL0 WebインタフェースのAgentless Management Service(AMS)のステータスについて

iL0 Webインタフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices] の Agentless Management Service(AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※ と表示された場合、iL0リセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service(AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service(AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service(AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iL0 Webインターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network] の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service(AMS)の再起動方法 >

○ Red Hat Enterprise Linux 7.xの場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

○ ESXi6.5/6.7の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsd.sh restart  
もしくは  
# /etc/init.d/ams.sh restart
```

※ お使いのAMSバージョンによりコマンドが異なります。

○ ESXi7.0/8.0の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsd restart
```

● サーバー再起動時のFAN高速化に関する注意事項について

iL05ファームウェアバージョン2.90以降をご使用の場合:

サーバーの再起動を行うと、稀にFANの高速回転やうなり音が7分以上継続する場合があります。

この場合は、再度サーバーの再起動を実施してください。

● 通報に関する注意事項について

iL05ファームウェアバージョン3.00以降をご使用の場合:

ESMPRO/ServerManagerをご利用されている場合、物理ドライブの状態変化に伴い、アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変化検出」のアラートが表示されます。

この際、物理ドライブのステータスに応じて、ロケーション情報が以下の二パターンのいずれかで表示されます。

- ①(Location: Slot=(A):Port=(B):Box=(C):Bay=(D) Controller: <NULL>)
- ②(Location: Port=(B):Box=(C):Bay=(D) Controller: Slot (A))

A:コントローラの位置(スロット番号)

B:物理ドライブのポート番号

C:物理ドライブのボックス番号

D:物理ドライブのベイ番号

● iLO Webインターフェイスのストレージ情報に関する注意事項について

iLO5ファームウェア 3.00以降をご使用の場合:

サーバー再起動後に、iLO 5 Webインターフェイスで [システム情報]-[ストレージ] タブをクリックすると、以下のメッセージが表示され、RAIDコントローラや、ドライブ情報等のストレージ情報が表示されない場合があります。

“Failed to retrieve complete storage device information. Refresh the page in a few minutes. ”

上記メッセージが[ストレージ]ページに表示された場合、iLOリセットを行ってください。

4) OSに関する注意事項

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG) に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。
各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 1.43 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> 構成タブ - サーバ状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	バージョン 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none"> アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のアップデート方法

- (1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストールガイド(Windows 編)」の「2章 インストール」を参照してESMPRO/ServerManagerをアップデートします。

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象

※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
バージョン 1.43 以上	iilo_jp.mtb バージョン 1.4.0 未満	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。
	iml_jp.mtb バージョン 1.5.0 未満	
	※iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルは2種類あります。	

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(iilo_jp.mtb、iml_jp.mtb)をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
iilo_jp.mtb、iml_jp.mtb は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス (MG) インストールガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」

または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。

(3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド」は以下の URL からダウンロードしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

・ Server Health Summary で確認する方法

サーバ本体の UID ボタンを押下して、サーバに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。

・ ネットワーク経由で確認する方法

iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager の WEB にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● VMware ESXi を使用する場合の注意事項

ESXi 起動時の VMware vSphere の監視 > ハードウェア > システムセンサー > センサの表示について。

① 下記のような Heartbeat Lost センサの表示が『警告 (黄色)』となる場合があります。

[Device] I/O Module (n) LOM_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert

[Device] I/O Module (n) NIC_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert

※n : LAN ポート番号の P1~4 を示します。

< iLO5 ファームウェア : 1.30、1.35、1.38 が適用された環境 >

ESXi 起動完了後、Heartbeat Lost センサの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『警告 (黄色)』となる場合、LAN ケーブルが接続されたポートは数分お待ちいただくと『警告 (黄色)』から『正常 (緑)』に遷移しますので、しばらくお待ちください。LAN ケーブルが接続されていないポートは『警告 (黄色)』を継続しますが、運用上問題ありませんので、そのままご使用ください。

なお、LAN ケーブルが接続された環境で『警告 (黄色)』が表示され続けた場合は、LAN ケーブルの接続不良の可能性が考えられますので LAN 結線等を再確認してください。

< iLO5 ファームウェア : 1.40 以降が適用された環境 >

ESXi 起動完了後、Heartbeat Lost センサの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『警告 (黄色)』となる場合、数分お待ちいただくと『警告 (黄色)』から『標準 (緑)』に遷移しますので、しばらくお待ちください。

② 非冗長 FAN 構成において ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『警告 (黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- Cooling Unit 1 Fans

③ ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- System Chassis 1 UID

● VMware ESXi環境でのAgentless Management Service (AMS) の注意事項

VMware ESXi 6.5、6.7 の環境に Agentless Management Service (AMS) version 11.4.0 がインストールされている場合、VMware Update Manager による VMware システムの更新が、/tmp ディレクトリへステージングするための空きがないことを示すエラーで失敗することがあります。

/tmp ディレクトリの使用可能なディスク容量に依存する他のアプリケーションでも同様に失敗することがあります。VMware ESXi ホストの/tmp ディレクトリにある“ams-bbUsg.txt”ファイルのサイズが時間の経過とともに増加するためです。空き容量を確保するために“ams-bbUsg.txt”ファイルを定期的に削除してください。

※ファイルを削除した場合は再度ファイルが作成されます。また、VMware ESXi ホストを再起動した場合も当該ファイルは削除されますが、再起動後に再度作成されます。

/tmp ディレクトリの容量が 256MB である場合、2 か月程度で上限に達することがあります。1 か月に一度を目安に削除してください。

※ご使用の環境の/tmp ディレクトリの容量に比例してファイル削除の実施頻度を変更していただけます。

例) /tmp ディレクトリの容量が 512MB である場合、4 か月程度で上限に達することがありますので、3 か月に一度を目安に削除します。

本事象は Agentless Management Service (AMS) 11.4.5 以上で修正されています。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([サポート・ダウンロード] — [サーバ] — [NX7700x シリーズ]

[技術サポート情報・ダウンロード] — [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページのユーティリティの項を参照)

(VMware ESXi 6.x 版(x=5 または 7)) を適用してください)

◆/tmp ディレクトリの容量は以下のコマンドを実行することで確認することができます。“tmp”の行を確認してください。

```
# vdf -h
:
Ramdisk          Size      Used Available Use% Mounted on
root              32M        2M      29M      7% —
etc               28M      172K      27M      0% —
opt              32M      564K      31M      1% —
var              48M      448K      47M      0% —
tmp             256M      276K      255M      0% —
:
```

◆Agentless Management Service (AMS) のバージョンの確認方法には以下の 2 つの方法があります。

・対象装置の OS 上で確認する方法

(1) コンソール端末から以下のコマンドを実行します。

```
# esxcli software vib get -n amsd | grep Version
```

(2) コマンド実行結果から「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」などの xx.x.x の箇所を確認します。

・iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法

(1) リモート環境において、Web ブラウザーから iLO Web インターフェースにログインします。

(2) 左メニューの「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。

(3) 画面の「Product Related Software」の「amsd」のバージョンを確認します。

※「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」など、xx.x.x の箇所を確認します。

● RAID監視通報方式の変更について

VMware ESXi において、NE3303-190/191/201 をご使用されている場合、RAID 監視通報は SNMP Trap による通報に変更になります。

詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

・NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● Linux OSを使用する場合の注意事項

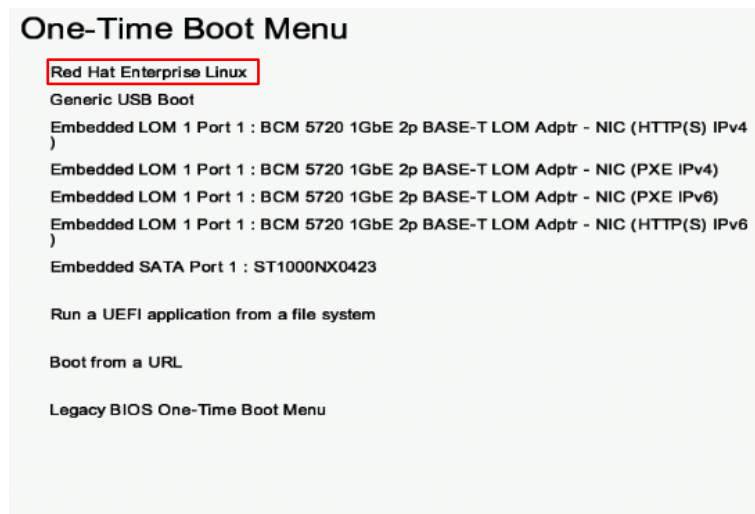
OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。また、PCI アドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がすることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat Enterprise Linux 7、8.5 以前を使用する場合の注意事項

ワントタイムブートメニューから起動する場合、OS ブートマネージャー (例: Red Hat Enterprise Linux) を選択してください。

OS がインストールされた HDD や SSD などのブートデバイスを選択した場合、Red Screen of Death (RSoD) が発生することがあります。



ワントタイムブートメニュー画面

● Linuxで iLOドライバ/Agentless Management Service(AMS)のメッセージ出力が多発する場合

OS 動作中に OS のシステムログに iLO ドライバや Agentless Management Service (AMS) による smad プロセスや amsd プロセスのメッセージが大量かつ継続的に記録される場合があります。この場合、iLO の再起動を行うことで事象を解消できる場合があります。なお、AMS のバージョンが 1.4.0 未満である、あるいは iLO ファームウェア 1.43 未満の場合、これらの本メッセージが発生しやすくシステムの負荷が高くなる場合があります。

■メッセージ例

```
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Closing, but controller still active
smad: Failed: ~
smad: Connected ~
```

● OS動作中におけるiLOの再起動について

OS 動作中に iLO の再起動が発生すると、OS のシステムログにリモートコンソールが使用する仮想 USB デバイスの切断と再接続のメッセージや、iLO と通信を行っている iLO ドライバと smad プロセスの通信異常を示すメッセージが記録されます。これは仕様上の動作であり問題はありません。

■Linux OS の場合のメッセージ例

```
kernel: usb 2-3: USB disconnect
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet
kernel: hub 2-3:1.0: USB hub found
smad: Failed: Writing SNMP_HELLO_BYE send=-1 errno =19
```


● 装置情報ユーティリティ実行時のUSBメッセージについて

装置情報ユーティリティ (ezclct/collectsa) を実行すると、OS のシステムログに装置内部の情報を収集するために一時的に装置内部の USB デバイスへ一時的な接続を行い、収集後切断されたことを示すメッセージが記録されます。これは仕様上の動作であり問題はありません。

■Linux OS の場合のメッセージ例

```
kernel: usb 2-3.1: New USB device found, idVendor=0424, idProduct=4030
kernel: usb 2-3.1: New USB device strings: Mfr=1, Product=2, SerialNumber=3
kernel: usb 2-3.1: Product: Ultra Fast Media Reader
```

● iLO Webインターフェース／ESMPRO ServerManagerのネットワーク警告について

LAN コントローラにおいてケーブル未接続ポート（未使用ポート）が存在すると、iLO Web インターフェースや ESMPRO ServerManager のネットワーク情報表示において、警告表示となっている場合があります。その場合、OS のネットワーク起動スクリプトを変更することで警告状態を解消することができます。

■Linux OS の場合の設定例

ケーブル未接続で警告表示されているポートの設定ファイル

/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-<eth 名>

において、

ONBOOT=no

に変更し、装置を再起動してください。

上記設定になっているにもかかわらず警告表示の状態となっている場合は、NetworkManager が有効になっているものと思われますので、さらに

NM_CONTROLLED=no

に変更し、装置を再起動してください。

なお、ファイルに項目が存在しない場合は項目を追加してください。

5) 全般の機能に関わる注意事項

● NE3316-51 (SAS エキスパンダカード) 使用時の注意事項

Starter Pack Version S8.80-004.01 に含まれている、NE3316-51 (SAS エキスパンダカード) の下記ファームウェアアップデートモジュール (Ver 5.08) は、適用しないでください。

[パッケージ名称]

Supplement Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) ? HPE 12Gb/s SAS Expander Firmware for HPE Smart Array Controllers and HPE HBA Controllers
(firmware-smartarray2de15b6882-5.08-1.1x86_64)

詳細につきましては、以下の Web サイトに掲載されている内容を確認してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

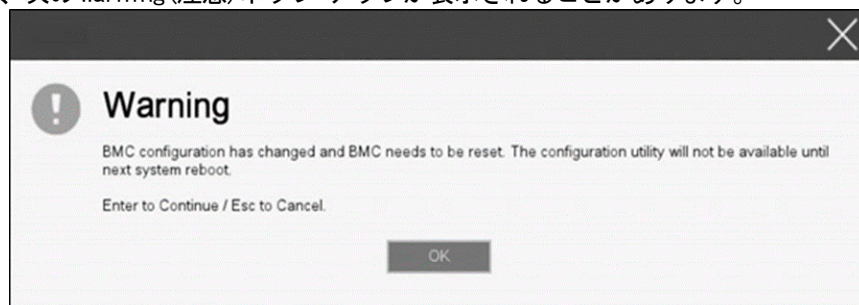
([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件]) のページの StarterPack 「S8.80-004.01」 を参照)

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

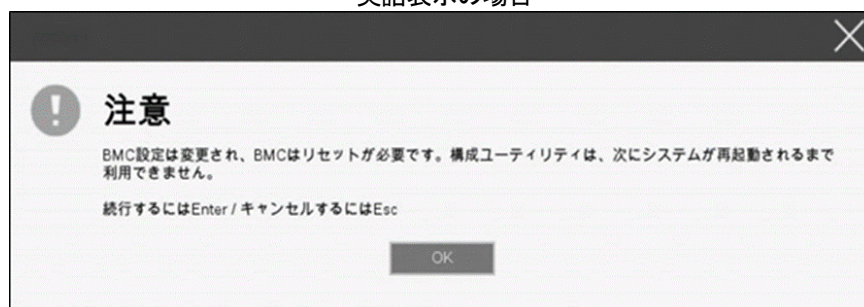
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは、装置に記録されている Serial Number、Product ID の消失が発生する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されることがあります。



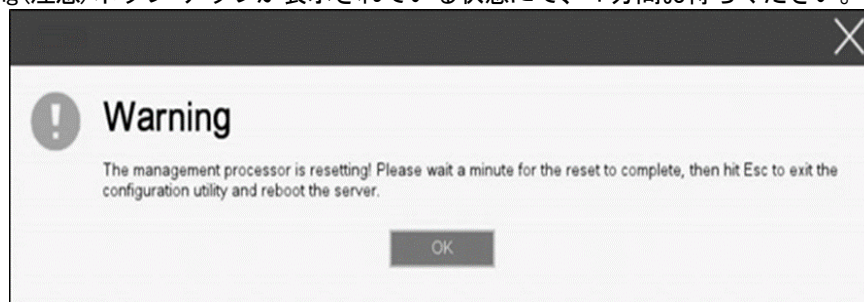
英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。

- (3) 次の Warning (注意) ポップアップの表示になり、iLO の再起動が行われます。
この Warning (注意) ポップアップが表示されている状態にて、1 分間お待ちください。



英語表示の場合



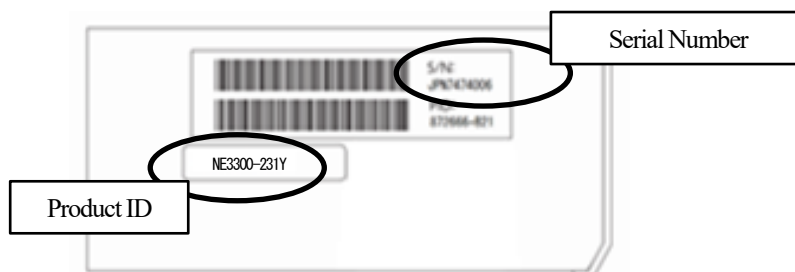
日本語表示の場合

- (4) iLO の再起動の完了を確認してください。
- (5) 再起動の完了が確認できたら、「OK」ボタンを押してください。
- (6) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (7) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● Serial Number、Product IDが消失してしまった場合の対処について

Serial Number、Product ID が消失してしまった場合、以下の手順にて復旧することができます。
(※Product ID とは、『NE3300-231Y』のような型番のことです。)

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30 秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWER スイッチで装置の電源を ON にします。
- (4) サーバが起動し、POST 画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、メンテナンスガイド、「1 章 (6. 4. 3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU 設定の初期化をします。
- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial Number と Product ID の値を確認します。
- (7) Serial Number と Product ID の値が期待する値の場合は、手順 14)に進みます。
- (8) Serial Number と Product ID の値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (9) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (10) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (11) 自動的に装置が再起動し、POST 画面が表示されます。
- (12) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- (13) 装置のスライドタグに記載されている Serial Number と Product ID をシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



- (14) RBSU 設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、その RBSU 項目の確認と再設定をします。

● POST (Power On Self Test) 処理が途中で停止した場合

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作後の再起動で、POST (Power On Self Test) の処理が “Memory Initialization - Start” で停止し装置が起動できなくなった場合、マザーボード上のシステムメンテナンススイッチの操作による復旧作業が必要となります。復旧作業にあたりまして保守サービス会社にお問い合わせください。

● ディスプレイポートについて

装置前面のディスプレイポートの動作は、サポートしていません。

● Smart Storage Batteryについて

Smart Storage Battery は、RBSU メニューなどで Energy Pack と表示されることがあります。
適宜、読み替えて下さい。

● UPS接続時の注意事項

UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
 2. System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。
- ・ NE3381-160(電源ユニット[800W/Platinum])を冗長構成で搭載している場合、以下の設定を変更してください。
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Power Options へと進み、「Redundant Power Supply Mode」を「High Efficiency Mode (Auto)」に設定してください。

※ High Efficiency Mode (Odd Supply Standby)、または、High Efficiency Mode (Even Supply Standby) に設定されているお客様については、上記の変更は不要です。

● 冷却設定の変更について

以下のオプションを搭載する場合は、安定稼働のため本製品の冷却ファンの設定を「Increased Cooling」へ変更してください。

既に冷却ファンの設定を「Increased Cooling」または「Maximum Cooling」に設定されている場合は、本対策を行う必要はありません。

対象オプション

- ・ NE3350-551 増設用 300GB HDD
- ・ NE3350-552 増設用 600GB HDD

◆ 設定手順

- (1) POST 中に <F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options を選択します。
- (3) Thermal Configuration メニューを 「希望する設定」に変更します。
- (4) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動します。

※ 冷却ファン設定の変更に伴い、お客様の運用環境や負荷によっては冷却ファンの回転数が上がることがあります。

● NE3303-184/NE3303-E184 SASコントローラ ご使用時の注意事項

NE3303-184/NE3303-E184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unknown)”と表示されることがありますが動作に影響はありません。

●データバックアップ時の注意事項

FC コントローラ配下に接続されたデバイスが誤って本体内蔵のマイクロ SD カードスロットとして認識されてしまう場合や、iStorage を接続しての自動バックアップ中に空の本体内蔵のマイクロ SD カードスロットを検出して認識されてしまい警告メッセージをポップアップして一時停止する場合があります。
これらにより正常にデータのバックアップを行えないことがありますので、装置の使用開始前に以下の設定手順で本体内蔵のマイクロ SD カードスロットを無効化してください。
本体内蔵の SD カードスロットは使用しませんので、無効化しても通常のサーバ動作には支障ありません。

◆設定手順

システムユーティリティの BIOS/Platform configuration (RBSU) メニューから
System Options -> USB Options -> Internal SD Card Slot を「Disabled」に設定。

●EXPRESSBUILDERヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は メンテナンスガイドの方を優先してください。

●Product IDについて

Product ID は、スライドタグに記載されています。



■ ファームウェア更新に伴う変更点

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、メニューの一部に変更があります。下記、変更点を記載します。

(1) Memory Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options」を選択すると、「Memory Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Memory Controller Interleaving	[Auto] Disabled	メモリコントローラー間のインターリーブ動作を選択します。 「Auto」を選択した場合、メモリコントローラー間のインターリーブ動作は本機のメモリ構成に応じて自動的に設定されます。 「Disabled」を設定した場合、メモリコントローラー間のインターリーブ動作は強制的に無効に設定されます。 本オプションは、「Auto」で利用することを推奨します。
Opportunistic Self-Refresh	[Disabled] Enabled	「Opportunistic Self-Refresh」を「Enabled」に設定した場合、メモリがアイドル状態になった場合にメモリのセルフリフレッシュを行います。 [Disabled] の場合は通常のリフレッシュを行います。

[]: 出荷時の設定

(2) Intel UPI Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Intel UPI Options」を選択すると、「Intel UPI Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Direct To UPI (D2K)	[Auto] Enabled Disabled	「Direct To UPI (D2K)」を「Enabled」にすると、Last Level Cacheのキャッシュミスによるレイテンシーを軽減します。 指定されない限り、設定変更しないでください。 複数プロセッサ構成の場合のみ表示されます。

[]: 出荷時の設定

(3) Advanced Performance Tuning Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Performance Tuning Options」を選択すると、「Advanced Performance Tuning Options」メニューが表示されます。

追加のオプションの追加について、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Processor Jitter Control Optimization	Optimized for Throughput Optimized for Latency [Zero Latency]	本オプションは指定ある場合をのぞいて、出荷時設定から変更しないでください。 このオプションは、プロセッサ周波数変動の自動調整機能の閾値を最適化します。「Optimized for Throughput」を選択すると、総合的な計算処理能力に影響しない変動を許容した制御をします。 「Optimized for Latency」を選択すると、プロセッサ周波数を下げるときに微小変動があることを許容した制御をします。「Zero Latency」を選択すると、周波数変動を取り除くように制御します。
IODC Configuration	[Auto] Enable for Remote InvItOM Hybrid Push InvItOM AllocFlow InvItOM Hybrid AllocFlow Enable for Remote InvItOM and Remote WCILF	本オプションは指定ある場合をのぞいて、出荷時設定から変更しないでください。 IODC (IO Direct Cache)の構成を設定します。 このオプションにより、I / Oトランザクションがプロセッサキャッシュと通信するためのポリシーを調整できます。

[]: 出荷時の設定

(4) PCIe Devices Configuration メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration」を選択すると、「PCIe Devices Configuration」メニューが表示されます。

追加のメニューについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Advanced PCIe Configuration	-	-

(a) Advanced PCIe Configuration メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration」を選択すると、「Advanced PCIe Configuration」メニューが表示されます。

追加のメニューについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
PCIe Bifurcation Options	-	-
PCIe MCTP Options	-	-

① PCIe Bifurcation Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe Bifurcation Options」を選択すると、「PCIe Bifurcation Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
PCIe Slot XX Bifurcation	[Auto] Slot Bifurcated	PCIe Slotに実装するPCIe拡張カードがSlot Bifurcation機能をサポートする場合、必要に応じて「Slot Bifurcated」を設定してください。 「Auto」を設定すると、PCIe Slotは、サポートされる最大幅で接続されます。 「Slot Bifurcated」を設定すると、PCIe Slotと拡張カード間の接続が、2個に分割されます。 XX: 1/2/3... (CPU数やライザーカード種類に応じて表示が変わります。)

[]: 出荷時の設定

② PCIe MCTP Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options」を選択すると、「PCIe MCTP Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
PCIe Slot XX MCTP Broadcast Support	[Enabled] Disabled	指定されたスロットのPCIe管理コンポーネント転送プロトコル(MCTP)を制御します。このオプションは、PCIeエンドポイントに対するMCTPサポートを無効にするために使用します。このオプションはシステムの全機能に対して有効に設定することを推奨します。 XX: 1/2/3... (CPU数やライザーカード種類に応じて表示が変わります。)

[]: 出荷時の設定

(5) Fan and Thermal Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options」を選択すると、「Fan and Thermal Options」メニューが表示されます。オプションのパラメーター追加について、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Thermal Configuration	[Optimal Cooling] Increased Cooling Maximum Cooling Enhanced CPU Cooling	本機のファン冷却方法を選択します。 「Optimal Cooling」は、適切な冷却を可能にする必要最小限のファン速度に設定することで、最も効率的な冷却方法を実現します。 「Increased Cooling」ではファンを高速で回転させ、冷却能力を高めます。「Increased Cooling」は、他社製のストレージコントローラーが内蔵ハードドライブケースにケーブル接続されている場合、または本機の高温の問題を他の方法で解決できない場合に使用します。 「Maximum Cooling」は、ファンを最高速で回転させ、最も高い冷却方法を実現します。 「Enhanced CPU Cooling」は、プロセッサの冷却をより強化します。プロセッサに負荷のかかるワークロードを実行する場合、プロセッサの冷却強化により、パフォーマンスが改善する場合があります。

[]: 出荷時の設定

(6) Advanced Debug Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Debug Options」を選択すると、「Advanced Debug Options」メニューが表示されます。追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Advanced Crash Dump Mode	[Disabled] Enabled	本オプションは指定ある場合を除き、出荷時設定から変更しないでください。 「Enabled」に設定した場合、システムがクラッシュした場合に、AHSログに追加のデバック情報を記録するようにシステムを構成します。

[]: 出荷時の設定

(7) Server Availability メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability」を選択すると、「Server Availability」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
IPMI Watchdog Timer (注1)	[Disabled] Enabled	IPMI に準拠した起動時の (POST) ウォッチドッグタイマー (WDT) を有効にできます。このタイマーは、ユーザーがシステムに対して IPMI コマンドを発行すると無効になり、自動的には無効になりません。 IPMI ウォッチドッグタイマー (WDT) は、POST 中に <F9> キー、または <F10> キーを押すと停止できます。 POST 中の <F9> キー、または <F10> キーを押した以外の場合、WDT は選択された IPMI ウォッチドッグタイマーのタイムアウト期間の後にタイムアウトし、システムは選択された IPMI ウォッチドッグタイマー動作を続行します。
IPMI Watchdog Timer Timeout (注1)	10 Minutes 15 Minutes 20 Minutes [30 Minutes]	サーバーのロックアップが発生した場合にサーバーに対して必要なタイムアウト動作を実行するまでの待機時間を設定できます。
IPMI Watchdog Timer Action (注1)	[Power Cycle] Power Down Warm Boot	サーバーのロックアップによってウォッチドッグタイマーが時間切れになったときのタイムアウト動作を設定できます。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム SystemROM Version 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(8) Server Security メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security」を選択すると、「Server Security」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
UEFI Variable Access Firmware Control (注1)	[Disabled] Enabled	オペレーティングシステムなど他のソフトウェアによる特定の UEFI 変数の書き込みを、システム BIOS で完全に制御できるように設定します。「Disabled」が選択されている場合は、すべての UEFI 変数が書き込み可能です。「Enabled」が選択されている場合、システム BIOS 以外のソフトウェアによって重要な UEFI 変数に加えられる変更はすべてブロックされます。例えば、オペレーティングシステムが新しいブートオプションをブート順序の最上位に追加しようとする、実際にはブート順序の最下位に配置されます。注記: UEFI 変数アクセスのファームウェアコントロールが有効になっている場合、オペレーティングシステムの機能の一部が期待どおりに動作しないことがあります。新しいオペレーティングシステムのインストール中にエラーが発生する場合があります。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム SystemROM Version 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(9) Power and Performance Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」を選択すると、「Power and Performance Options」メニューが表示されます。
追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Energy Performance Preference	[Disabled] Enabled	このオプションを使用して、エネルギーパフォーマンス優先を有効または無効にします。

[]: 出荷時の設定

注1: システムROM Version 2.80以降にて利用できるオプションです。

NEC



CBZ-014778-001-12

2024年 3月 18版